

【科学部】湧水フィールドワーク

8/28

連携先: 東久留米市市民環境会議
水とみどり部会

ねらい: 地域居住の方と一緒に調査活動を行うことで、地域の自然環境への理解を深める。

- 自己有用感を高める
- 他者と協働する力を高める
- 学校や地域の一員としての自覚を持たせる
- 様々な活動に意欲的に参加できるようになる

落合川を知る…市役所で、市内を流れる落合川について、位置、汚れた川からきれいな川へよみがえった努力の過程、湧水の定義などを連携先の方からお話しいただいた。その後、本校科学部員と一緒に実地踏査を行った。

調査活動

- 科学部部員 12名の生徒が調査活動を行う。
- 連携先の講師の方から講義を受ける。
 - ・ 落合川の位置、汚れた川からきれいな川へよみがえった努力の過程、湧水の定義等を学ぶ。
- 実地踏査
 - ・ 竹林公園内など3か所の湧水を歩いて巡り、水が湧き出ている様子、溶存酸素、アメンボなどの生息状況を調査する。
 - ・ データ収集や観察に加え、実際に冷たい水に触れるなど、記憶に残る体験を行う。



科学部員自ら川へ入り、水が湧き出ている場所を見つけました。(頭の影のあたりです)

成果・課題

- ・ 学区域内を流れる川の過去を知り、湧水の新たな発見を得た。生徒は、地域への愛着が深まった。
- ・ 地域居住の方だからこそ可能な定点での調査活動だった。経年変化の分析から、多くのことを生徒は学んだ。
- ・ すぐに結果が出ない長期にわたる調査を、生徒は継続できるか。有用な結果が評価される体制づくりを考えていく。